

# 令和3年度 遺跡整備・活用研究集会 開催概要

## ■ 開催趣旨

史跡の保存活用計画の策定が盛んであるが、史跡の本質的価値の枢要な構成要素であった建造物遺構や石造物で近代になって移築され、別所で保管されているものがある。近世城郭であれば明治維新で廃城となり、城郭建造物が処分される中で城下の旧藩主菩提寺などへ城門等が移築されて、そこでは旧藩との由緒を語るものとして大切にされているものもある。

また、古代寺院跡などから近代数寄者が礎石を集め、自邸や別邸の庭に飾ったという事例も少なくない。例えば、東大寺旧境内（史跡）から移築された伽藍石は、奈良の依水園（名勝）や横浜の三渓園（名勝）、大阪の美術館などに所在する。

昭和14年、野村財閥の別邸から法隆寺若草伽藍の心礎が戻されたように、移築された建造物遺構や石造物は、本来的な場所で安定的位置を得ることができる。しかしながら、これらの移築された建造物遺構や石造物は本来の遺跡の本質的価値の構成要素であるだけでなく、移築先でも名勝等の枢要な価値の構成要素や展示品となっているものもある。また、配慮すべき移築の経緯や遺跡の独自な履歴もあり、史跡の保存活用計画の中でもこれらの取扱いが苦慮されるところである。

本研究集会では様々な事例を通して、移築された遺構・遺物の現在の取り扱いや説明、元の遺跡の整備の在り方等について、現状と課題を共有したい。

## ■ テーマ 移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題

■ 日 時 令和4年3月15日（火） 10:00～16:10

■ 場 所 奈良文化財研究所 本庁舎 4階会議室

■ 事務局 奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡整備研究室  
内田 和伸 高橋 知奈津

■ 参加者 発表者・コメンテーター・事務局 計9名

## ■ プログラム

10:00 ～10:10	開会挨拶・趣旨説明
10:10 ～10:50	報告① 「移築移設された遺跡由来の遺構遺物の保存・活用」 内田 和伸（奈良文化財研究所）
10:50 ～11:30	報告② 「福岡城から移築された城郭建築遺構の再移築について」 大塚 紀宜（福岡市経済観光文化局 史跡整備活用課）
11:30 ～12:10	報告③ 「若松城本丸の復元整備と建造物の再移築について」 近藤 真佐夫（会津若松市教育委員会）
13:00 ～13:40	報告④ 「移築された城郭遺構を移築再建する名古屋城二之丸庭園の復元整備 —陸軍管理時代に散逸した茶室と名勝庭園の整備について—」 鈴木 昌哉（名古屋市観光文化交流局 名古屋城総合事務所）
13:40 ～14:20	報告⑤ 「三溪園における移設石造物・移築建造物とその意義について」 小野 健吉（大阪観光大学）
14:20 ～15:00	報告⑥ 「建造物の移築と庭園の移転—森蘿の業績を通して—」 エマニュエル・マレス（京都産業大学）
15:10 ～16:10	質疑・総合討議
16:10	閉会挨拶

\* タイトルは発表当時のもの。



研究報告



総合討議